

を自主的に持っている園は数園（幼稚園が多い）のみであった。子育て支援をはじめ、保護者とのパートナーシップ、子どもへの接し方などは園内全体で計画的に話し合う時間を持っているところはほとんどなかった。

・感想のすべてが、この講座に参加してよかった

ということを書いていることから、現場で子どものことや親のこと、そして保育実践にかかわる話し合いが少ないか、持たれていないかをうかがわせるようであった。

（村田 保太郎）

「八木講座」

子育て文化のコーディネイティング

会場 中野サンプラザ

【テーマ】《保育文化のコーディネイトとスキルアップ講座》

【内容】 概略：自分の園と個性を発揮する保育文化のデザインとコーディネイトの仕方を検討する。現職者で、3歳児以上の幼児クラス担当をしている現職者を募集した。定員30人とした。実施は3回。

第1回5月28日（土）は、「保育メディアと保育室の環境コーディネイト」として、「保育メディアのデザインとコーディネイト」「保育室の環境づくりと調整」「子どもとの関わり」などを内容に行った。参加者数を30人（実際は35人）の少人数に絞ったことで、実践者との臨場的なやりとりができて、その後、IT活用による保育相談が1年間にわたって続行されるなど講師としても手ごたえのある講座だった。第2回6月18日（土）、「組織的遊び～ごっこ・劇遊び～のコーディネイト」をテーマに行った。これも現場のニーズの多いテーマだったので、手ごたえあった。内容は、「ごっこ遊びに関する年間プランのコーディネイト

ト、各年齢別の個別プランのコーディネイトを扱った。第3回8月27日（土）10時から4時、定員50名では、《アートフルな表現遊びのアイデアと実技》集中講座として、ワークショップを行った。テーマは、身近な素材を使った人形劇の創り方で、卒業生にもゲストで上演してもらい、参加者全員が参加した即興上演を行った。いずれも少人数規模で行ったので細かなアシストができた。

（八木 紘一郎）